



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	浦幌川におけるモクズガニの記録
Author(s)	円子, 紳一; 持田, 誠
Citation	浦幌町立博物館紀要, 20, 33-34
Issue Date	2020-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77485
Type	journal article
File Information	Bull. of the Historical Museum of Urahoro_20_33-34.pdf



採集記録・観察記録

浦幌川におけるモクズガニの記録

円子紳一¹⁾・持田 誠²⁾Shinichi MARUKO & Makoto MOCHIDA, 2020. The record of *Eriocheir japonica* in Urahoro river, Tokachi, Hokkaido

Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 20: 33-34.

国内で食用として利用されているモクズガニ（イワガニ科 *Eriocheir japonica* (de Haan)）の生息が、浦幌川で確認された。国内では普通種で、道内各地に広く分布しているとされるが、道東・十勝では生息情報が少ない。

2019年6月25日の「浦幌の自然を楽しむ会」のウチダザリガニ駆除作業中に、浦幌川の森永乳業裏（図2A）にある水深50～60cmのコンクリート落差工で雌1尾が捕獲された（図1）。甲幅は51mmで標準サイズだった。7月11日にも同所で雄1尾と雌3尾が確認された。

会員は「今まで見たことがない。数人に聞いたが生息を知っている人はいなかった」と話していたが、町の広報誌（2019年8月号）の「博物館の窓」で紹介されたモクズガニの記事を見た数人の町民から、数年前に見たことがあるなどの情報が寄せられている。

中村剛氏は、2018年の7月に、浦幌川の第一橋界限（図2C）において釣りの最中に、足を払げると約25cmの個体が足元を歩いて行く様子を確認している。中村氏によると、「4年ほど前には確認出来なかったと思うが、何故かヤマベが爆発的に増えた頃から、かなり沢山の個体が還ってきているように思う。何か



図1 浦幌川で2019年6月25日に採集されたモクズガニ

表1 浦幌で捕獲されたモクズガニの記録

No.	捕獲月 日	捕獲場所	性別	甲 長 mm	甲 幅 mm	体 重 g	計測
1	6月25日	浦幌川 森永裏段差	♀	48.6	51.0	60.0	死後計測
2	7月11日		♀	44.8	46.7	100.0	生体計測
3			♀	41.4	42.6	95.0	
4			♀	44.4	44.7	50.0	
5			♂	37.3	36.7	71.0	
6	9月18日	浦幌川河口	♂	59.5	64.0	100.0	死後計測
7			♂	61.5	64.5	110.0	
8			♀	57.5	60.0	80.0	
9			♀	61.5	63.5	85.0	

図2 浦幌川流域でのモクズガニの確認地点
（国土地理院1:200,000地形図「帯広」に加筆）

1) 浦幌の自然を楽しむ会（〒089-5634 北海道十勝郡浦幌町字帯富）

2) 浦幌町立博物館（〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町）

因果関係があるのか、いずれにしても嬉しいこと」と話している（中村氏私信）。

また、帯富地区（図2D）で農業を営む元木一彦氏からは、「かつてこの辺りの沢にサワガニがいた」との情報を寄せられた。このサワガニは、モクズガニを指している可能性が高い。

同年9月18日には、西垣隆夫氏が浦幌川河口域（図2B）で捕獲した4匹のモクズガニが博物館に持ち込まれた。浦幌川河口の河岸に設置してある消波ブロックの上にいたものを捕獲したものである。

モクズガニは、日中は転石などの物陰に隠れていて、夕暮れに活動する夜行性のため、人目に触れないことが観察例の少ない要因となっているようだ。

浦幌の自然を楽しむ会が6月に行った「第16回身近な水環境の全国一斉調査」で、浦幌川中流域の測定値が「2」（きれいな水）だったことから、浦幌川が生き物にとって住みやすい環境にあると考えられる。

モクズガニは降河型の通し回遊を行う種で、成熟個体が川を下り海域で産卵し、海域で生まれた幼生はその後成長を続けながら海水域に達する。35～70mmになると成熟し、秋期から冬期にかけて淡水域から感潮域の下流部および海域に降河して、春期に産卵する（坂下 2003）。ふ化したゾエア幼生は、数カ月わたる海での浮遊生活期間中に脱皮して、メガロバ幼生に変態する。メガロバ幼生は塩分がわずかに感じられる程度の水域に着底し、底生生活を開始し、脱皮して稚ガニとなる。北海道では甲幅7mm程度まで成長すると初夏から秋にかけて川を上る（上田ほか 2005）。上中流域で2～3年生活し、脱皮を繰り返しながら成熟し降河する（坂下 2003）。

標 本

モクズガニ *Eriocheir japonica* (de Haan)

#2020-119 Loc. Hokkaido, Tokachi-gun, Urahoro-cho, Zaimoku-cho, underwater of the Urahoro-river / Jun. 25, 2019/ Coll. Shinichi Maruko / adult female 1
採集地：北海道十勝郡浦幌町字材木町、浦幌川水中／2019年6月25日／採集者：円子紳一／雌1

#2020-120 Loc. Hokkaido, Tokachi-gun, Urahoro-cho, Toyokita, on tetrapod at estuary of the Urahoro-river / Sep.18, 2019/ Coll. Takao Nishigaki / adult male 2, adult female 2
採集地：北海道十勝郡浦幌町字豊北、浦幌川河口部の消波ブロック上／2019年9月18日／採集者：西垣隆夫／雄2、雌2

謝 辞

西垣隆夫氏、中村剛氏、元木一彦氏には、浦幌町内での確認情報を提供いただいた。株式会社ズコーシャの堤公宏氏には、十勝や道東での情報や文献情報を紹介いただいた。美幌博物館の町田善康氏には、モクズガニの標本製作法や管理法などについてご教示いただいた。ご協力いただいた皆様に、深く感謝する。

引用文献

- 坂下拓. 2003. モクズガニの生態と北海道の一河川における分布状況. 育てる漁業, 363: 3-5
上田吉幸、前田圭司、嶋田宏、鷹見達也（編）. 2005. 漁業生物図鑑「新北のさかなたち」, 394-397. 北海道新聞社.



図3 2019年9月18日に浦幌川河口で採集されたモクズガニ（腹側）。上段2匹がオス、下段2匹がメス